

今月のテーマは「むし歯ができるしくみ」です。

みなさんはどうしたらむし歯になるかご存知でしょうか？

「甘いものを食べているから？」、「歯を磨かないとなる？」

今回はそんな虫歯菌についてお話します。

むし歯ができるしくみ

・赤ちゃんが生まれてくるとき(産道をとおるとき)に、母親からは約 300 種類もの口内の「常在菌」がうつされます。その中の 10 数種類がいわゆる虫歯菌です。

プラーク中の虫歯菌は、糖分をエサにして酸を放出し、歯の表面のエナメル質を溶かして、ついには穴をあけてしまいます。厳密にいうと、酸はエナメル質の主成分であるハイドロキシアパタイトという歯や骨を構成している物質を分解する(=脱灰)、これが虫歯です。



生えたての乳歯はむし歯になりやすい！

・生えたばかりの歯のエナメル質はとても弱いのです。乳歯は生えてから何年もかけてリンやカルシウムを取り入れながらエナメル質を強固にしていきます。エナメル質の強化が十分でないと、エナメル質が脱灰しやすく、そのため虫歯になりやすい子どもになってしまうのです。



15才までに虫歯を1本もつくらなければ、大人になって虫歯で悩む可能性はぐっと低くなります！
まずは乳歯を虫歯にしないことから心がけましょうネ。
仕上げ磨きも忘れずに行きましょう！！

乳歯で虫歯になると永久歯も虫歯になりやすい！

・乳歯のうちからの虫歯予防は大切です。虫歯になった乳歯を放っておくと、口中に虫歯菌が増えつづき、永久歯が生える頃には虫歯になりやすい環境が整ってしまいます。また、乳歯のときにミュータンスレンサ球菌に感染すると、あとから生えてくる永久歯も虫歯になりやすくなってしまいます。永久歯であっても、生えたばかりの頃はエナメル質がとても弱いということを知っておきましょう。さらに、虫歯で乳歯が抜けると、永久歯が傾いたり重なって生えがちで、歯並びが悪くなります。こうなると、せっかく歯みがきをしても食べかすや歯垢が歯間にたまりやすく、虫歯や歯周病になりやすい環境を作ってしまいます。

美しい永久歯を手に入れるには、美しい乳歯をつくるのがとても大切なのです。

